

世界と世代をつないでいく アニメ「ポケモン」の魅力

アニメ「ポケットモンスター」は、1997年4月に放送を開始し、今年で20周年を迎えました。この夏の「劇場版ポケットモンスター キミにきめた!」は記念すべき映画20作品目となります。テレビ東京を代表するアニメコンテンツ「ポケットモンスター」のこれまでの歩みを振り返ります。

■ アニメ「ポケットモンスター」とは…

ポケットモンスター（略してポケモン）が生息するふしぎな世界で、主人公の少年サトシが、相棒のピカチュウと「ポケモンマスター」を目指して旅する、冒険物語。

1997



アニメ

アニメ放送開始

第1話「ポケモン!きみにきめた!」

アニメ化の際、数多くのポケモンの中の一体に過ぎなかった「ピカチュウ」をサトシの相棒に大抜擢。可愛らしい見た目と鳴き声で、たちまち大人気に。瞬間にポケモンブームが巻き起こりました。



世界のPokémonへ

アメリカにて、アニメ放送開始。また翌年映画「ポケモン・ザ・ファースト・ムービー（邦題：ミュウツーの逆襲）」が全米公開。それまでアメリカで上映された日本映画の中で最高の興行収入を収め世界の「Pokémon」へ。



1998

『ポケットモンスター
アドバンスジェネレーション』
放送開始

映画

「劇場版ポケットモンスター ミュウツーの逆襲」
興行収入72億円を超える大ヒット



映画第1作が、いきなりの大ヒット。その年の年間配給収入ランキング第4位、アニメ作品では第1位を獲得。以降、夏のファミリー映画として定着している。

番組

ポケモン情報バラエティ
番組放送開始!

ポケモン情報バラエティ「週刊ポケモン放送局」放送開始。以降、「ポケモン☆サンデー」(04年)、「ポケモンスマッシュ!」(10年)、「ポケモンゲット☆TV」(13年)と進化を続け、現在は「ポケモンの家あつまる?」を放送中。

2002

『ポケットモンスター
ダイヤモンド・パール』
放送開始

映画

スクリーンから、
主役のポケモンがやってくる!

10周年を記念して「劇場版ポケットモンスター ダイヤモンド・パール ディアルガVSパルキアVSダークライ」では、ポケモン映画の上映館にて、映画の主役ポケモンをゲームソフトにワイヤレス通信でプレゼントするという世界初の試みも。



映画

映画の興行収入累計700億円突破

『ポケットモンスターXY』
放送開始

『ポケットモンスター
ベストウイッシュ』
放送開始

2010

2013

2017

20
周年

アニメ

最新シリーズ、テレビ東京系列で
毎週木曜夜6:55～
好評放送中!!

おなじみサトシとピカチュウが、新たな舞台「アローラ地方」で新たな大冒険! 大自然のさまざまな場所に生息する個性豊かなポケモンたち。そんなポケモンたちとサトシが全身、全霊、全力を注いで繰り広げる、明るく楽しい新シリーズ!



ポケモンのいる日常を、 これからも描き続けていきます

20周年おめでとうございます。TVアニメの監督として僕が呼ばれたのは、ゲームが出て少し経った頃。世の中の動きとリンクするように、息子や娘たちにもポケモンが広まっていったことを覚えています。そんな人気ゲームをアニメとして描く際、注意したのはゲームのシナリオをなぞるだけのアニメにはしないこと。ポケモンや人との出会いと別れを物語の中心に据えたのはそのためです。また僕らが子供の頃は、毎日近くで虫捕りをしたり、たまに隣町まで自転車で出かけたりと、まさにポケモンの世界観の中をリアルに生きていました。そんな実体験にポケモンを重ね合わせ、アニメでは夏休みの日常を、映画では夏休みのちょっと特別な一日を表現してきたつもりです。これは他のアニメキャラクターとは違い、自然界の生き物として描かれているポケモンだからこそ、できたこと。これからも、ポケモンを子供たちの日常に溶け込む、身近な存在として描き続けていきたいと思っています。

湯山 邦彦 監督

TVアニメシリーズ放送開始当初からの監督。1998年公開の「劇場版ポケットモンスター ミュウツーの逆襲」を皮切りに毎年劇場版の監督も務め、今夏公開の「キミにきめた!」で20作品目を迎える。

時を重ねるごとに、 宝石や名画のように輝きを増す存在

20周年、本当に本当におめでとうございます。ポケモンほど、世代と世界をつないでくれた存在は他にないと思います。もはや文化と言っていいぐらい。私自身もポケモンのおかげで、新しい出会いとたくさんの思い出に恵まれ、それが星座のようにつながって、この20年共に歩んで来られました。まるで夢を見ていたような、それでいて、とても密度の濃い20年でした。子供の頃テレビ東京さんの番組を見て、ポケモンのゲームに熱中していた私が、10年後には、なんと『ポケモン☆サンデー』*の出演者になることができ、映画にも初めて出演させていただきました。そしてこの20周年も、「ポケんち」の管理人として一緒にお祝いすることができる。本当に幸せと感謝でいっぱいです。もうポケモンのいない未来は想像できません。これからも時を重ねるごとに、宝石や名画のように輝きを増し、みんなの笑顔をつないでいってください。

※2004～2010年まで放送されたポケモン情報バラエティ番組



祝 20周年!!

サトシの言葉を通して、 勇気や強い気持ちを伝え続ける

20周年ゲットだぜ!!まさかこの言葉を自分が言えるなんて夢のようです。本当に、続けてこられたことに感謝だし、同時にその重みや責任も感じています。私自身、サトシのひたむきさや猪突猛進なところが大好きで、自分に重ねることもあります。ただ人間は、歳を重ねるごとに恐怖や辛さを知り、一步踏み出せなくなってしまう時もあります。でもサトシは、そんな恐怖や辛さに負けない強い“心”を持った男の子。あるファンの子から、「サトシが学校にいたら、いじめがなくなると思う」というお手紙をいただいたことがあるんですが、その子が感じてくれたように、サトシの言葉を通して勇気とか負けるなっていう思いを伝えたいですね。そのために私自身も変わらずに、これからも大好きなサトシを表現していきたいと思っています。20年は長い年月ですが、人に例えると成人式を迎えたばかり。チームポケモンとして力を合わせ、子供たちの笑顔をつないでいけるよう頑張ります。

松本 梨香さん

1997年のアニメ放送開始より、主人公サトシ役を務める。松本さんが歌う主題歌「めざせポケモンマスター」は、ミリオンセラーを記録し、その歌声は世界中のファンに愛されている。



中川翔子さん出演中の『ポケモンち』は、
テレビ東京系列にて

好評放送中!

ポケモンち
あつまる?
POKÉNGHI

毎週日曜 朝8:00



ポケモンが大好きな人たちがシェアハウス「ポケモンち」にあつまり、いろいろな遊びをしながら最新のポケモン情報をお届けするバラエティ番組。

中川 翔子さん

2004年より放送のポケモン情報バラエティ「ポケモン☆サンデー」に出演し、現在の「ポケモンの家あつまる?(ポケモンち)」までレギュラーを務める、言わずと知れた犬のポケモン好き。

親子で楽しめる 番組づくり




interview

松山進
SHIMASHIMA MATSUYAMA


アニメ局 アニメ制作部 副参事
1995年入社。イベント事業部、編成部などを経て、2002年にアニメ制作部へ異動。
ポケモン担当のプロデューサーを6年間務める。その後いくつかの部門を経験し、
2014年から再びアニメ制作部へ。ポケモンシリーズを手掛け、今年で10年目を迎える。

未来へ つなげることが 私の役割

 続けていくために、
自分は何を残せるか

テレビアニメがスタートして20年。映画も今年公開の作品で20作目です。そのなかで私は、9年間プロデューサーを務めさせていただきました。実感としては、よくぞ続いたという思いと、続けさせるための努力が実を結んだという素直な喜びがあります。ただ自分としては、ポケモンはこれから30年、50年、100年と続いていくものだと思っていますので、本当の意味で実を結ぶのはまだまだ先です。

私は2002年にプロデューサーを引き継いだ時からずっと、自分の役割は中継ぎピッチャーだと思っていて、テレビ東京が放送している「アニメ・ポケットモンスター」、出資している「映画・ポケットモンスター」を続けていくために、自分は何を残していけるのかを常に考えてきました。20周年はめでたいことだし、一つの成果だという思いはもちろんありますが、それよりも今後に向けて、積み重ねていかなければならないものが、たくさんあると感じています。

 大事ななのは
「変わらないこと」

続けていくために、私が一番大事に思っ

ているのは「変わらないこと」。今でこそ当たり前となった、木曜夜7時のテレビ放送や、夏休みの映画公開、これを半永久的に続けていくことが重要だと思っています。20年が経ち、放送開始当時ファンだった方にもお子さんが生まれます。そのお子さんと一緒に楽しむ番組は、自分が見ていた木曜夜7時のアニメや夏休みの映画。ポケモンは、そんな「いくつになっても戻れる場所」でありたいのです。そしてそのためには、信頼感が重要です。ストーリーの内容おもしろ、キャラクターの台詞や動作おもしろ。ポケモンであれば、安心して見せられるとあっていただける番組づくりも、私が常に意識している部分です。

もちろん、視聴率や興行収入の向上は、続けていくための大切な要素であり、注力すべきことですが、だからと言って、深夜に放送時間を移すことはありません。場所を守る。それが受け継いだものを、次につなげていく私の役割だと思っています。

そしてこの「場所を守ること」は、私たち作る側の人間の喜びにもつながります。日曜日のバラエティ『ポケモンの家あつまる?』で、先日、出演者の皆さんに、過去20年のアニメの感想を語ってもらいました。ポケモンをリアルに体験してきた皆さんは、一つのシーンの奥深くまで踏み込んで語り尽くしてくれたんです。私たち作り手の思いが、そのまま伝わっていたことを実感できた、感動的な瞬間でした。20年間変わらず続けてきたからこそ、こんな嬉しいご褒美がある。この喜びも一緒に、次の世代へつなげていくためにも「変わらないこと」を大切にしていきたいと思っています。

画面の向こう側を意識し、世の中の変化に対応する

一方で、テレビの視聴環境はこの20年で劇的に変化しました。私がポケモンに携わった頃、上司から教えられたのは、「画面の向こう側に家族そろってテレビを見ている姿をイメージすること」でした。ただ現在は、別のことをしているお父さんお母さんの横でお子さんだけがテレビを見ていたり、録画して何度も楽しんだり、配信を外出



先で見たりすることもあります。放送の見方が多様化した今は、テレビの前以外でわざわざ見たいと思う、録画して何度も楽しもうと思うような面白さを、高々と掲げておく必要があります。

また映画も、安全なシネコンの登場で、キッズ向けの作品は、お子さんだけで見ることが当たり前になってきました。私たちは、ポケモンを親子そろって楽しんでもらいたいので、そのための仕掛けやメッセージは当然伝えていきますが、テレビも含めお子

さんだけで見る機会が増えている状況では、子供たちだけでも安心して見られる配慮も必要です。多種多様な視聴環境を想定し、考えの幅を広げなければならない時代。変わらぬものを守りながらも、世の中の変化には柔軟に対応する。こうした対応力も、長く続けていくために必要なのだと考えています。

努力を欠かさず、思いを次の世代へ

ポケモンと一緒に作ってきた会社は、20年間ポケモンのゲームを開発している「ゲームフリーク」さんをはじめ、ブランドマネジメントを行う「株式会社ポケモン」さん、小学館さん、東宝さん、制作幹事の「小学館集英社プロダクション」さん、アニメーション制作の「OLM」さんなど、各業界のトップばかりです。そんな皆さんとご一緒することで、私自身たくさんの刺激を受けてきましたし、業界トップの会社たちが作る世界的コンテンツにかかわれる、ダイナミズムも感じています。テレビ東京としては、そのなかで自分たちの役割をしっかりと果たしていかなければなりません。

これから30年、50年、100年と続けるための努力を、今私は欠かしていないつもりだし、一緒に仕事をしているテレビ東京の優秀な仲間も、同じ思いを持って取り組んでいます。長く続けていくための施策とニーズ変化への対応を今後も仕掛けながら、テレビ東京の中で、こうした思いを次の世代に伝えていく。それが、中継ぎピッチャーとしての自分の役割だと思っています。

数字で
知る!!

「ポケモン」ココがすごい!!

テレビ東京で一番長く続いているアニメ番組「ポケモン」。かつて夢中になった子供たちが親となり、自分の子供と一緒に二世代で楽しむ光景も見られるようになりました。世代を越え、国を越え愛され続けるポケモンを、数字から探っていきましょう。

最高視聴率

アニメ放送が開始すると、視聴率はたちまち2ケタをキープ。

1997年11月11日(火)「ほのおのポケモンだいレース!」が、歴代最高視聴率。

18.6%



市場規模

今や、Pokémonは世界共通語。
日本のアニメビジネスは、世界へ。

累計市場規模の国内、海外の比率:
国内35% 海外65%

6兆円超え
(2017年3月末時点)

※ゲーム、カードゲーム、ライセンス商品、テレビアニメ、映画などを含めた全世界における累計規模です。



映画

動員数

7,433万人

興行
収入

789億円

※日本国内における第1作～第19作の累計値

2008年に公開した「キラティナと氷空(そら)の花束 シェイミ」は、238万枚の前売券を販売し、「最も前売券が売れたアニメ映画」としてギネス認定されています。

(2017年3月末時点)



世界でのアニメ放送国数(実績)

98の国と地域
(2017年3月末現在)

7月15日(土)
公開!

劇場版
ポケットモンスター
キミにきめた!

今年の映画は20作目!!

2017年、夏。ポケモン映画が新たな一歩を踏み出します。

記念すべきシリーズ20作目を飾るのは、全てのファンが待ち望んでいた物語。TVシリーズ第1話で描かれたサトシとピカチュウの出会いから、ホウオウと出会うまでの感動ストーリーです。ぜひ、劇場をご覧ください。

○配給：東宝 ○監督：湯山邦彦 ○特別出演：本郷奏多、佐藤菜里、山寺宏一、中川翔子、古田新太
○声優：松本梨香、大谷育江 他



未来へ続く作品として、ポケモンを次のステージへ

20年の重みを背負い、 次の20年をつくる

仕事としてポケモンにかかわってまだ6年ですが、私自身、子供の頃に、テレビやゲームでポケモンをリアルに楽しんだ世代です。そう思うと、これまでポケモンをつくり、支えてくださった方への尊敬や畏怖の念とともに、20周年の重みを、ひしひしと感じています。この大きな節



アニメ局 アニメ事業部

石本 順也

2011年入社。入社以来アニメ事業部に所属し、ポケモン映画を担当。企画や出資といった事業面の運営はもちろん、さまざまなプロモーションも手掛ける。

目を迎え、私がやるべきことは、先輩方の想いを背負ったうえで、これからの20年をつくっていくことです。20年といえば、私たちのようにポケモンをリアルに体験した世代に子供ができ、そろそろ親子二代で楽しめる頃。未来に続くエターナルコンテンツとして、ポケモンを次のステージに進めるためには、この20周年が、非常に大事なタイミングだと考えています。

ポケモンの根源的な魅力が 詰まった作品

20周年記念の今作品「劇場版ポケットモンスター キミにきめた!」は、サトシとピカチュウの絆のお話です。最初はサトシを嫌っていたピカチュウが、冒険を通して心を開き、絆が生まれ、最高のパートナーになっていくまでを描いています。放送開始当時にアニメを見ていた世代には懐かしく、それでいて新鮮な気持ちで見ただけだと思いますし、ポケモンを見たことがない人も、一から楽しめる作品です。集める、育てる、バトルするといった要素はもちろん、冒険を通じた出会いと別れというポケモンの根源的な魅力がたくさん詰まっており、見どころ満載の映画です。制作陣もいつも以上の意気込みで映画を作っており、良作になることは間違いありません。

ポケモンを体験した 全ての方々に来ていただくために

ターゲットについては、これまでのようにキッズだけではなく、ファミリーや私たちのようなポケモンを見てきた世代も見据えていますので、PRに関しては、各世代と、うまく接点をつくるのが重要だと考えています。子供たちは、TVアニメやバラエティ、コミックを通して発信できますが、他の世代には別のアプローチが必要です。放送を軸としながらも、SNSを使ったPRなど、他の世代が触れる媒体やポイントを使いながら、接点を増やしていく予定です。

劇場で映画を見る機会は、年に数回あるかないか。そのうちの1本に選んでいただくのは簡単なことではありません。ただポケモンは、選ばれるだけのポテンシャルを持った作品。ポケモンを体験した全ての層に的確にアプローチし、大人から子供までたくさんの方に来ていただけるきっかけにしたいですね。そして巷の話題をさらい、公開前にはお祭り騒ぎのような、盛り上がりをつくる。次の20年に向け、いろいろな意味で、過去の名作を超える作品にしたいと思っています。